

F/T12

FESTIVAL/TOKYO



1月8日、君はどこにいたのか? / メヘル・シアター・グループ
作・演出: アミール・レザ・コヘスタニ

Where were you on January 8th? / Mehr Theatre Group
Text, Direction: Amir Reza Koohestani

11/2 (Fri) - 11/4 (Sun)

東京芸術劇場 シアター・イースト
Tokyo Metropolitan Theatre, Theatre East



2020年オリンピック・
パラリンピックを日本で!



演出ノート

アミール・レザ・コヘスタニ

去年の夏、2年間のイラン不在の後、大統領選挙に伴う事件の1カ月後、私はマンチェスター大学で書いていた博士論文を一時中断し、ティム・クラウチの戯曲『イングランド』の翻訳を持ってテヘランに帰国した。

私は当時のイランで起こった出来事を下敷きに、この作品を書き直したかったのだ。あらすじは非常にシンプル。ホモセクシュアルの男性が致命的な脳の病気にかかった患者の家族にウィレム・デ・クーニングの絵画を贈る。その目的は絵画の代わりに患者の心臓を移植してもらうこと。あらすじがシンプルなだけでなく、クラウチからの指示では、かつて公共空間であったギャラリーで上演するようにとあったから、私はこの戯曲を次のプロジェクトに選んだ。

『イングランド』のロンドンでの上演は、かつては教会だった現代美術ギャラリーで行われた。エディンバラの初演の際には、作家が本来望んでいた通り、かつて野菜市場だったギャラリーでの公演が実現した。私はこの作品をテヘランのイラン・アーツ・センターのギャラリーで上演しようと考えていた。その建物は10～15年ぐらい前には兵舎だった。作家のBehrooz Gharibpourのアイデアで、テヘラン市カウンスルが文化イベントを行うための施設に改装したのだ。

以前は武器庫や兵士のドミトリイとして使われていた空間。そこで、この戯曲を上演することで、私はイラン社会の内部で拡大する圧力に対する

批判を試みようと思っていた。そして、上演にあたってこれ以上の説明は不要だろうと考えていた。

だが驚いたことに、上演テキストの読み合わせ後、多くの友人が「なぜ今この作品を？」と私に尋ねてきた。彼らの大半は、私が西洋のメディアやYouTubeの映像を通して見た2009年6月にテヘランの路上で起こった事件、その報道を知らなかった。私と違って、彼らはむしろその事件を個人的に経験していた。彼らの問いに対し、私はイランの特殊な状況においてなぜこのテーマを選んだのか、イランの歴史において、今なぜこの作品の上演が必要で自分がどんな変化を起こしたいのか、を説明した。私が話すほどに、彼らはいよいよ沈黙した。

「あなたは何もわかっていない。選挙中実際に起こったことは、ただ『武器を下ろせ』と言ったり、全ての兵舎をアートギャラリーに変えることで解決するなんてレベルの話ではなかった」

では、彼らの言う「真実」とは何か？ 夜中まで続いた議論の最中、友達のみりが言った。「あなたの作品は私たちが経験したことと何の関係もない。あなたはその時にここにいなかったのが真実だ。選挙の前であろうと後であろうと、その時その路上にいた人の話をどれだけ聞いたとしても、インターネット上で携帯電話で撮られた映像をどれだけ見たとしても、あなたが、例えば何百万人もの無言のデモの最中、私たちが経験したことを、演劇や他のメディアを使って表現

することは不可能だ。演劇は、24時間映像だけ流して事件を伝えるニュースチャンネルとは違う。だからこそ、あなた自身が本当に経験したことをテーマにしたほうが良いと思う」

実は、イギリスでの生活は私の自分の国に対する見方を変えた。多くの西洋人と同様、私は自分の国を24時間流れるニュースチャンネルが提供する映像、そのジャーナリスティックな目を通じて見るようになっていた。問題を一般的に分かりやすくするため、各事件に独特な形容詞をつけてもいた。例えば「平和的」、「暴力的」、「支配的」、「見捨てられた」、このような単語を利用し、それぞれの出来事について私の判断を読者/聴衆/読者に押し付けていたのだ。

「平和的デモ」

「暴力的衝突」

「政府の支配的視点」

「見捨てられた国民」

こうした自分の感覚の変化に気付いた私は、新しい上演台本を書き始める前に、最近の人々の態度の変化を詳しく観察してみようと決めた。最初にこの新たな試みを始めたのは、私がイランにいなかった2年間の出来事が人々にどう影響を及ぼしたのか自分の中で明らかになりつつあったからでもある。そして、プレテキストであるこのノートに、実地調査の結果を簡単に並べてみ

ようと思う。観客は、ここに実際の上演を理解するための手がかりを見つかることができるかもしれない。

1) ……そしてあらゆることへの公正さ

選挙の前後、政府や政治評論家によって最も歪められたのが公正さの概念だった。公正さとは何か？ それは法律の適用か？ 犯罪の処罰か？ もしも法律を知らされていなかったら？ もし法律の適用そのものが不公正に繋がるならば？ もし公正を掲げている組織自体が不公正の源となるならば？ 『1月8日、君はどこにいたのか？』でシデの元交際相手(彼女と同じ病院で働いている医師)はシデと映ったプライベートなビデオを保管し、返そうとしない。彼女はビデオを返してもらいたくても、警察に通報できない。通報したら、なぜ彼と性的な関係を持ったか説明しなければならないからだ。彼女は自身の正当性を保障するために、武器を手に入れようとする。

2) 犠牲者のドミノ現象

イランの交通渋滞と運転マナーは、ルール違反者を処罰し、自動車を押収することだけでは解決できない。運転手に「あなたはなぜ通りの反対側を走っていたのか」と聞いても、全員が同じく答える。「みんながそうしているから。規則通りの運転をすれば絶対に目的地に着けない」。そ

の他の問題でも、こうした傾向は最近、社会のあらゆるところで見られるようになった。誰かに自分の権利が侵されたら、自分もまた必ず誰かの権利を侵す。まるでドミノだ。『1月8日、君はどこにいたのか?』では、何人かの登場人物が、武器をなくした兵士がどんな目にあうのかを分かっているが、彼の武器を奪う。彼らは自分自身が他人の犠牲となっているから、兵士を犠牲者にする資格があると思っているのだ。

3) 言葉による暴力

実はほとんどの人は、他人に肉体的な暴力を振るうことができない。いくら怒っても相手をぶん殴ることは難しい。イランでもそうだ。西洋のメディアに見られるペルシア人(特にペルシア人男性)に対する一般的なイメージや、イランの警察と司法の家庭内暴力に対する無力さ、さらに言えば近年の経済的かつ社会的圧力にも関わらず、公式統計によるとイランでの家庭内暴力や殺人は西洋の国の多くに比べてずっと少ないという。とはいえ、日常の圧力感には特にテヘランのような大都市では言葉の暴力として表れる。『1月8日、君はどこにいたのか?』は私にとってその言葉の暴力を表現する新しい試みであった。これはペルシア語が分からない人にとって理解しにくいと思うが、それでも聞くことだけで想像がつくかもしれない。

4) 女性の改革主義

あるムーブメントを作り、続けていくという点で、過去100年間のうちでも今回の選挙後ほど、女性の役割が重要だったことはない。彼女たちの、選挙とその後のデモへの積極的な参加、そして多くの女性の逮捕は、ヘルシアの男性にとって、今までは考えられなかったようなことだ。『1月8日、君はどこにいたのか?』では、ソゴールという若い女性が、長年抑圧された、権利を求める女性を代表していると言えるだろう。4人の登場人物の中でもソゴールが抱えている問題は、おそらく最も些細だ。交際相手が大学の授業で教授から侮辱された。彼女はこの侮辱を受け入れられないから、教授を銃で脅したい。それは、過剰反応には違いない。だが実際はそれは、侮辱への反応ではなく、歴史への反応なのである。

5) 質問と嘘

私の票はどこへいったのか? ととてもシンプルに答えられる質問だ。だが、現実には暴力と嘘以外の答えは返ってこなかった。イランでは答えてもらえない、してはいけない質問がたくさんある。一般的に質問に責任を持って答えるべき人々からは納得のいく答えがもらえないので、あなたが質問する相手は無名の人だ。だから私は、この作品のタイトルを質問形式にした。犯罪映画で犯罪が起こった後に調査官が容疑者に聞く、簡単な質問である。ただ、その質問をこの舞台

の登場人物にしたら、一国の歴史ほど大きな意味のある答えが返ってくると思う。

数カ月間テヘランの通りを歩きながら、2009年のテヘランの真実の姿を覆い隠すあらゆる制約について考えた。そして、私は『1月8日、君はどこにいたのか?』を純粹にある種のルポタージュとして発表し、そこに解決策を提示しないことにした。だから、この作品は少し複雑に見えるかもしれない。なぜなら、私が2年間に経験できなかったあらゆる出来事への応答をコラージュにし

た作品だからだ。むしろコラージュにしたこと自体が、舞台上で起こっていることを少し追いかけているかもしれない。本音を言えば、私はこの作品を書いている間(社会の公正さについて考えながら)法や規律についてはあまり考えていなかった。私はむしろこの作品を、自分の国のある時期のある記録、どんな歴史の教科書にも載らないような、この歴史的な時代に生きる人々が置かれた人間の条件についての記録として著したのである。

(2010年/シラズにて/翻訳: 楢山由香)

アミール・レザ・コヘスタニ: 劇作家、演出家

1978年イラン生まれ。16歳でシラズの新聞にショート・ストーリーを発表。17歳で映画に夢になり、映画の演出および撮影技術の勉強を始める。96年メヘル・シアター・グループが彼のショート・ストーリーをもとにした芝居を企画したことをきっかけに、演劇と出会う。1年間俳優としてメヘル・シアター・グループに参加した後、劇作に転向。2000年、22歳で、2作目の戯曲『The Murmuring Tales』を演出し、第18回ファジル演劇祭(イラン)で5部門受賞を果たした。02年の『Dance on Glasses』は近年のイランでも最も議論を巻き起こし、成功した作品としてヨーロッパ各地で上演されたほか、05年の『Amid the Clouds』、07年の『Recent Experiences』もヨーロッパを巡演している。09年ブザンソン国立演劇センターで演出家のシルヴァン・モーリス(フランス)と平田オリザと共同制作した『ユートピア?』は、フェスティバル/トーキョー09春でも上演された。マンチェスター大学で学んだ後、09年にイランに帰国、翌年『1月8日、君はどこにいたのか?』を発表。兵役を終えた11年10月には、チェーホフの『イワノフ』の改作をテヘランで上演し、高い評価を得た。現在、世界で最も注目される非西洋圏劇作家・演出家の一人。



©Abbas Kowsari

舞台を読み解く7つのキーワード、テヘラン事情



テリア

こうした海外種の犬を飼うことは金持ちの西洋的な習慣だと見られており、街中で保守派に注意されることもある。

テヘラン大学の門

イランの最高学府であるテヘラン大学。金曜日にはイスラム教の高僧アヤトラによる集会がある。リベラル派の学生の抵抗を防ぐため、門の警備は厳重で、通過するには厳しいIDチェックを受けなければならない。

ラバサン

テヘランから約20キロの郊外にある人口湖の湖畔の村。山に囲まれた、空気のきれいな場所で、金持ちの別荘地でもある。

土地の不法占拠

川の周辺など、人の手が入っていない土地に家を建て、住み着く貧しい者たちもいる。

徴兵制度

イランでは男性に対して、24カ月の兵役が義務付けられている。制度は厳格で、徴兵が済んだかどうかの証明書はあらゆる場所でチェックされる。万が一、守れない場合は、結婚もできず、海外にも行けず、正式な仕事にもつけない。

婚前交際

宗教的な理由から、結婚していない男女が親密な交際をすることは認められていない。そのことが公になれば、キャリアに不利に影響することもある。

『女中たち』

フランスの劇作家ジャン・ジュネが1947年に獄中で執筆、発表した戯曲。女中の姉妹が留守宅で、“女主人と召使いごっこ”に興じている。その筋書きは、召使いが女主人を殺害するというもの。二人は、やがて帰宅する本物の女主人の殺害をも企てるのだが……。

作・演出：アミール・レザ・コヘスタニ
音響：マーティン・シャムーン・ブル
演出助手、制作：ムハンマド・レザ・ホセインザデ
技術監督、映像：ヘッサム・ヌーラニ
出演：サイド・チャンギー・ジアン、ファテメ・ファクライ、ネガル・ジャバヘ
リアン、エルハム・コルダ、アフマド・メフランファール、マヒン・サドリ
カンパニー&ツアーマネージャー：ピエール・レイス

製作：メヘル・シアター・グループ
協力：ドラマティック・アート・センター(テヘラン)

東京公演スタッフ
技術監督：寅川英司+鴉屋
技術監督アシスタント：河野千鶴
舞台監督：柚谷昌洋
演出部：弘光哲也、北村泰助
小道具：栗山佳代子
美術コーディネーター：福島奈央花
照明コーディネーター：佐々木真喜子(株式会社ファクター)、岡本沙知恵
(株式会社ファクター)
音響コーディネーター：相川 晶(有限会社サウンドウイーズ)
映像コーディネーター：遠藤 豊(ルフトワーク)
映像テクニカル：ルフトワーク、筒井真佐人、株式会社プリズム
衣裳管理：藤田 友
字幕：幕内 覚(舞台字幕 / 映像 まくうち)
翻訳・通訳：ショレ・ゴルバリアン
通訳：金森小百合、山田規古

記録写真：石川 純
記録映像：株式会社彩高堂「西池袋映像」

F/Tスタッフ
制作統括：武田知也、小島寛大
制作：相山由香
フロント運営：遠藤いづみ
インターン：吉崎香央里
プログラム・ディレクター：相馬千秋

F/Tクルー：福村舞、大賀啓子、霜島桃子、福原麻梨子、米谷今日子、
斎藤 望

主催：フェスティバル/トーキョー

※本作品中、ジャン・ジュネ作「女中たち」からの引用は、渡辺守章・翻訳「女中たちバルコン」(岩波文庫)を参照させていただきました。

ポスト・パフォーマンス・トーク(ベルシャ語、日本語逐次通訳つき)
11/3(土) アミール・レザ・コヘスタニ、キャスト

関連プログラム 「F/Tユニバーシティ」Vol.8 アミール・レザ・コヘスタニ(ベルシャ語、日本語逐次通訳つき)
11/4(日) 16:00~19:00
アミール・レザ・コヘスタニ、ナビゲーター：鴻英良(演劇批評家)
会場：東京芸術劇場 シンフォニースペース
料金：無料(要 Web 予約) 定員：70名(先着順、定員に達し次第終了)

Text, Direction: Amir Reza Koohestani
Sound: Martin Shamooun Pour
Assistant Direction, Production Co-ordination: Mohammad Reza Hosseinzadeh
Technical Manager, Video: Hessem Nourani
Cast: Saeid Changizian, Fatemeh Fakhraee, Negar Javaherian, Elham Korda,
Ahmad Mehranfar, Mahin Sadri
Company & Tour Management: Pierre Reis
Produced by Mehr Theatre Group
In co-operation with Dramatic Arts Centre (Tehran)

Tokyo Performance Staff
Technical Manager: Eiji Torakawa + Karasuya
Assistant Technical Manager: Chizuru Kono
Stage Manger: Masahiro Somaya
Stage Assistants: Tetsuya Hiromitsu, Taisuke Kitamura
Props: Kayoko Kuriyama
Stage Design Co-ordination: Naoka Fukushima
Lighting Co-ordination: Makiko Sasaki (Factor Co., Ltd.)
Sound Co-ordination: Akira Aikawa (Sound Weeds Inc.)
Video Co-ordination: Yutaka Endo (LUFTZUG)
Video Technical: LUFTZUG, Masato Tsutsui, Prism Co., Ltd
Dress: Tomo Fujita
Surtitles: Satoru Makuuchi
Translation, Interpretation: Shohreh Golparian
Interpretation: Sayuri Kanamori, Noriko Yamada

Photography: Jun Ishikawa
Video Documentation: Saikoudo Co., Ltd

Festival/Tokyo Staff
Production Manager: Tomoya Takeda, Hiroto Kojima
Production Co-ordination: Yuka Sugiyama
Front of House: Izumi Endo
Trainee: Kaori Yoshizaki
Program Director: Chiaki Soma

F/T Crew
Mai Fukumura, Oga Keiko, Momoko Shimotori, Mariko Fukuhara, Kyoko Yoneya,
Nozomi Saito

Presented by Festival/Tokyo

フェスティバル/トーキョー組織委員

Festival/Tokyo Organization Committee

天牛大生	振付家、演出家
萩田伍	アサヒグループホールディングス株式会社代表取締役会長兼 CEO
扇田昭彦	演劇評論家
永井多恵子	社団法人国際演劇協会 (ITI/UNESCO) 日本センター会長
鶴川春雄	演出家
野田秀雄	演出家
野村高生	狂言師
福原義春	株式会社資生堂 名誉会長 (五十音順)
Ushio Amagatsu Hiroshi Ogita Akihiko Senda Takao Nagai Yuko Ninagawa Hidetoshi Noda Man Nomura Yoshihara Fukushima	Choreographer, Director Chairman and Representative Director, Chief Executive Officer, Asahi Group Holdings, Ltd. Theatre critic Chairman, Japanese Centre of International Theatre Institute (ITI/UNESCO) Director Director Kyogen actor Honorary Chairman, Shiseido Co., Ltd.

主催：フェスティバル/トーキョー実行委員会
東京都、豊島区、

東京文化発信プロジェクト室、東京芸術劇場、公益財団法人東京都歴史文化財団、
公益財団法人としま未来文化財団、NPO法人アートネットワーク・ジャパン

Organized by Festival/Tokyo Executive Committee

Tokyo Metropolitan Government, Tashima City, Tokyo Culture Creation Project & Tokyo Metropolitan Theatre (Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture), Toshima Future Culture Foundation, Arts Network Japan(NPO-ANJ)

共催：社団法人国際演劇協会 (ITI/UNESCO) 日本センター

Produced in association with Japanese Centre of International Theatre Institute (ITI/UNESCO)

協賛：アサヒビール株式会社、株式会社資生堂

Sponsored by Asahi Breweries, Ltd., Shiseido Co., Ltd.

助成：公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団

Supported by Asahi Group Arts Foundation

後援：外務省、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会

Endorsed by Ministry of Foreign Affairs, GEIDANKYO

特別協力：西武池袋本店、東武百貨店池袋店、サンシャインシティプリンスホテル、
ホテルメトロポリタン、ホテルグランドシティ、チコネット株式会社、株式会社白水土社

Special co-operation from SEIBU HOKUENDENTEN, TOBU DEPARTMENT STORE HESAKURAI, Sunshine City Princess Hotel, Hotel Metropolitan, Hotel Grand City, Chacott Co., Ltd., Hakusui Publishing Co., Ltd.

協力の場：東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、
豊島区観光協会、社団法人豊島産業協会、公益社団法人豊島法人会

In co-operation with The Tokyo Chamber of Commerce and Industry Toshima, Toshima City Shopping Street Federation, Toshima City Federation, Toshima City Tourism Association, Toshima Industry Association, Toshima Corporation Association

宣伝協力：株式会社ポスターハウス・カンパニー、
有限会社ネビュラエストラサポート(公募プログラム)

PR Support: Poster/Hall's Company, Nevula Extra Support Co., Ltd. (for FT Emerging Artists Program)

メディアパートナー：J-WAVE 81.3FM、新潮、ART.IT、CINRA.NET

Media Partners: J-WAVE 81.3FM, SHINCHO, ART.IT, CINRA.NET

認定：公益社団法人企業メセナ協議会

Approved by Association for Corporate Support of the Arts

平成24年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ

Supported by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan in the fiscal 2012

会期：平成24年(2012年)10月27日(土)～11月25日(日)



フェスティバル/トーキョー実行委員会

Festival/Tokyo Executive Committee

名誉実行委員長	高野之夫	豊島区長
実行委員長	市村作知雄	NPO法人アートネットワーク・ジャパン 会長
副委員長	吉末昌弘	豊島区文化商工部長
委員	八巻規子	豊島区文化商工部文化デザイン課長
	大沼映雄	公益財団法人としま未来文化財団 常務理事/事務局長
	裕正人	公益財団法人としま未来文化財団 副会長
	蓮池奈緒子	NPO法人アートネットワーク・ジャパン 代表
	相馬千秋	NPO法人アートネットワーク・ジャパン プログラム・ディレクター
監事	天貝勝己	豊島区総務総務課長
法務アドバイザー	榎井健策	北海道弁護士会(弁護士事務所)

Honorary President of the Executive Committee: Yukio Takano, Mayor of Toshima City
Chairman of the Executive Committee: Sachio Ichimura, Director of Toshima City
Vice Chairman of the Executive Committee: Masahiro Yoshida, Mayor of Commerce and Industry Division of Toshima City
Committee Members: Noriko Yamaki, Culture, Commerce and Industry Division, Director of Cultural Design Section
Hideo Onuma, Director of Secretary of Toshima Future Culture Foundation
Masato Kishi, Executive Manager of Toshima Future Culture Foundation
Naoko Hasegawa, Arts Network Japan Representative
Chiaki Soma, Arts Network Japan Program Director
Supervisor: Katsumi Amaga, General Affairs Division, Director of General Affairs Section of Toshima City
Legal Advisors: Kenzaki Fudou, Hisato Kitazawa (Kotou Dou Law Office)

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

Executive Committee Office

プログラム・ディレクター	相馬千秋
事務局長	蓮池奈緒子
事務局長補佐	小島寛大
制作総括	武田知也
制作	河合千佳、喜友美麻江、小森あや、相山由香、 戸田史子、藤井さゆり
メディア戦略	松本花音
プログラム・リサーチ	クラウハイム・ウルリケ
アジア事業コーディネーター	小山ひとみ、李丞孝
票務管理	長原理江、岡内淳
チケットセンター	佐々木由希子、佐藤久美子
総務	葦原円花、一色真寿
経理	堀久美子
小制作アシスタント	小野塚英史、砂川史織、田中沙季、田野入涼子、中山亜以
メディア戦略補佐	冠根葉奈
アジア事業コーディネーター補佐	吉岡真衣子
インターン	伊藤芽依、小林弘樹、田端俊也、船橋史、吉崎香央里
技術監督	賀川英司
技術監督アシスタント	河野千鶴
照明コーディネーター	佐々木真菜子(株式会社フクター)
音響コーディネーター	相馬千秋(有限会社サウンドエース)
アートディレクション+デザイン	アジール(佐藤直樹+中澤耕平+谷陽子+穂永明子+菊池昌男)
ウェブサイトを	濱田真一+田裕佑(株式会社ロフトワーク)
パブリシティ	平昌子、望月豪宏
海外広報・翻訳	アンドリュース・ウィリアム
物販	渡辺淳
編集・執筆	鈴木理映子
編集・執筆 (TOKYO/SCENE)	影山裕樹

Program Director: Chiaki Soma
Administrative Director: Naoko Hasegawa
Assistant Administrative Director: Hirotoomo Kojima
Production Manager: Tomoya Takeda
Production Co-ordinators: Chikira Oae, Ori Kiyuna, Aya Komori, Yuka Sugiyama, Fumiko Tode, Sayuri Fujiki
Media Strategy: Kanako Matsumoto
Program Research: Ulrike Krauthelm
Asia Projects Co-ordinators: Hitomi Oyama, Seunghyo Lee
Ticket Administration: Rie Nagahara, Fusuko Shishido
Ticket Office: Yumiko Saeki, Kumiko Sato
Administrators: Madoka Ashihara, Hisayoshi Isshiki
Accounting: Kamiko Tsutsumi
Assistant Production Co-ordinators: Chika Onozaka, Shiori Sunagawa, Saki Tanaka, Suzuko Tanori, Ai Nakayama
Assistant Media Strategy: Nanana Kanami
Assistant Asia Project Co-ordinator: Makie Yoshioka
Trainees: Mei Ito, Hiroki Kobayashi, Toshiya Tabei, Fumi Funahashi, Kaori Yoshizaki
Technical Director: Eiji Torakawa
Assistant Technical Director: Chirano Ken
Lighting Co-ordinator: Makiko Sasaki (Factor Co., Ltd.)
Sound Co-ordinator: Akira Aikawa (Sound Weeds Inc.)
Art Direction+Design: Asaji (Naoki Sato + Kohei Nakazawa + Yoko Tani + Akiko Tokunaga + Masataka Kiuchi)
Website: Shinichi Hamada + Yoko Tanaka (fortwax.inc)
Public Relations: Masako Taira, Akhiro Mochizuki
Overseas Public Relations, Translation: William Andrews
Merchandise: Jun Watanabe
Editor/Writer: Rieko Suzuki
Editor/Writer (TOKYO/SCENE): Yuki Kageyama

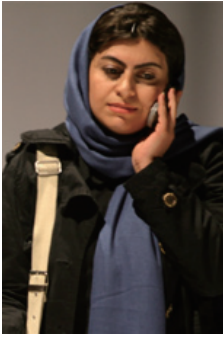
FT/Tクルー: 会津麻美、青島美和、安達彩、石引康子、一ノ瀬真志、若城孝止、上杉康政、宇都宮千晴、内海ささき、遠藤乃判子、大泉尚子、大貫啓子、大庭愛音、岡崎由子、緒方彩乃、岡本光代、岡本佳子、尾澤弥生、小野千尋、加藤真帆、鹿子不蘭美、金子穂高、川口 潤、木口七海、木下玉美、金セツム、許智 輪、相谷佳実、黒沢友実、黒沢寛子、齊藤 晋、齋藤絵里佳、崎渡聖梨、佐藤友香里、佐藤音子、霜島珠子、柴田智子、鈴木智香子、間島弥生、高橋悠祐、田中右希、寺本奈津美、照田真希、岡 旭起、水杉彩子、中村真樹、中村みなみ、中山由紀、西岡学、能戸みな美、畑浦富実、初村和実、花田雅美、早川幸菜、林原 菜、人見真央、廣瀬加乃、福原麻梨子、福村 芽、藤原 太、船山結菜、増尾 志、松崎福菜、中村早絵、松本雄哉、丸山未来、三橋 正、岡 健、矢島 剛、内野聖司、山内布紀、山室木園、山分可子、丹野亜希、吉田由貴、米谷今日子、渡辺 夏

FT Crew: Minami Aizu, Miwa Ohnohara, Aya Akiashi, Yasuko Ishikubo, Takashi Ichinose, Tairo Iwaki, Yasunasa Usugui, Chiaki Utsunomiya, Chiaki Utsumi, Noriko Ozumi, Ozumi Naoko, Keiko Oga, Aika Omichi, Yuko Okazaki, Ayano Ogata, Mitsuyo Okamoto, Yoshiko Okamoto, Yuyo Oizawa, Chihiro Ono, Maho Rato, Naomi Kaneko, Joy Kaneko, Akane Kawaguchi, Namiko Kiyochi, Tamako Kiyochi, Saeko Kim, Chiryu Kyo, Yoshimi Kiritan, Tomomi Kuroawa, Hiroko Kazaki, Naomi Sakai, Eriki Saito, Eri Sakihama, Yukiko Sato, Koyoko Sato, Mumeo Shimotori, Tomoko Shibasaki, Chikako Suzuki, Yayoi Sekijima, Yuzuki Takahashi, Yuki Tanaka, Natsumi Teramoto, Shizuka Tokumura, Xuru Tani, Sayoko Nagai, Naoko Nakamura, Mimami Nakamura, Yuki Nakayama, Takayuki Nakahiko, Mimami Noto, Fumi Hatase, Kazumi Hatsumae, Masami Hanada, Haruna Hayakawa, Shiori Hayashibara, Manami Hanada, Hiroki Hirose, Mariko Fukuma, Kenta Fujiwara, Yoko Funakawa, Kei Masakawa, Rina Matsushima, Sae Matsumoto, Yuya Matsumoto, Mirai Maruyama, Yasunasa Mizuno, Hyemin Min, Aya Tojima, Saeji Tanaka, Yuki Yanaguchi, Kizono Yamamura, Masashi Yamawaki, Ai Yumino, Yuki Yoshida, Kyojo Yonemitsu, Sara Watanabe

編集：鈴木理映子、フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局
発行：フェスティバル/トーキョー実行委員会
アートディレクション+デザイン：佐藤直樹+中澤耕平 (ASYU)
オペレーション：小川 剛
印刷：アトミ株式会社
発行日：2012年11月2日
禁無断転載

お問合せ先
発行：フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局
〒170-0001
東京都豊島区西巣鴨4-9-1 にしやがも創造舎 NPO法人アートネットワーク・ジャパン内
TEL: 03-5961-5202
HP: http://festival-tokyo.jp/

登場人物紹介



ファティ

(ファテメ・ファクライ)

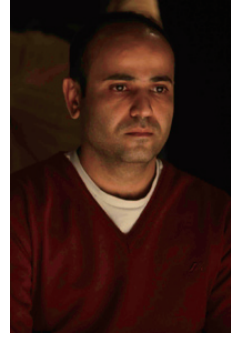
大学で演劇を学んでいる学生。彼女は友人達に、学年末の彼女のプロジェクトであるジャン・ジュネの『女中たち』への出演を頼んだ。アリは彼女のフィアンセである。



サラ

(ネガール・ジャバヘリアン)

アーティスト。有名である。彼女は映画にも出演するし、画家でもあり、彫刻家でもある・・・ファティの学年末のプロジェクトのリハーサルのために、全ての友達に彼女の家（ラハサン、テヘランの郊外）に集まった。



アリ

(サイード・チャンギージアン)

ファティのフィアンセ。彼は兵役中で、兵士である。彼は最後のリハーサルに、禁止されているにも関わらず、銃を持って来た。



シデ

(マヒン・サデリ)

研修医であり、ファティの友達。



アブディ

(アフマド・メフランファール)

彼は、サラに“利用されている”男。彼は最後のリハーサルに小道具の手伝いをするために来た。アブディは、女性達よりも社会的階級が低い。それは、彼の話し方から解る。しかし、彼は“Miss”などといった言葉を使ったりしながら、それを悟られまいとしている。



ソーゴル

(エルハム・コルダ)

大学でアートを学ぶ学生。ファティの友達。モシリ教授のもとで学ぶアラシュという恋人がいる。